

<p>検討結果</p>	<p>1. 新人常勤看護職員と常勤看護職員の離職率の低減 【新人看護職】 ① 新人看護職の離職理由を明確化する為の調査を実施する。調査結果から定着対策の取り組みを検討。(社会人経験のある新卒看護職と社会人経験のない新卒新人看護職とは、退職理由が異なる事も念頭に入れ調査する) ② 新人看護職が定着している施設の受入れ体制や取り組み内容の紹介(成功例)やシンポジウム、研修会、の開催。(指導体制、新人の母校との情報共有、精神面への支援等) 受講対象者：看護管理者 ③ ①②等も参考に看護協会独自のガイドラインを作成する。 【常勤看護職員】 ① 個々の施設に応じたWLBの継続・定着。 ② 看護師長の意識改革を図るための研修会の開催 ③ 退職理由の実態調査 2. 多様な勤務形態導入施設の増 ① 多様な勤務形態が導入しやすい施設をつくることを目的に看護管理者、事務局長を対象に研修会の開催。(導入先行施設の事例紹介、意見交換会) 健康福祉部と共催で実施する。 ② 多様な勤務形態導入施設数の目標値：3年後30%増 3. 潜在看護職の掘り起し ① ナースセンター事業として潜在看護職に情報が届く広告の工夫 ・動画による広告、多くの目に触れる場所への広告(例：バスの広告) ・広告内容の工夫(例：短時間でも働ける。雇用条件の明確化等) ② ハローワークとの連携の為に体制作り ③ 多様な勤務形態の導入が進む事で潜在看護職の掘り起こしにも繋がる。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>検討結果で提示した項目について取り組みをする。</p>

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成25年 6月27日	(1つの諮問事項を1～2回ずつ、討議する。) 1. 新人常勤看護職員と常勤看護職員の離職率の低減についての検討(1)	○離職理由と離職防止対策の具体的な検討(1) ・教育体制の整備 ・メンタルヘルス対策 ・WLBの推進 ・新人看護師の退職理由
第2回	8月28日	1. 新人常勤看護職員と常勤看護職員の離職率の低減についての検討(2)	○離職理由と離職防止対策の具体的な検討(2) ・常勤看護師の退職理由と実態調査の検討 ・育児休業者の復帰しやすい風土作り ・看護管理者対象の研修実施
第3回	11月13日	1. 多様な勤務形態導入施設の増についての検討(1)	・平成24年度看護協会の定着確保動向調査から多様な勤務形態導入状況を確認
第4回	12月4日	1. 多様な勤務形態導入施設の増についての検討(2) 2. 中間報告書のまとめ	・多様な勤務形態を導入している施設の情報共有 ・取り組みを推進する為の検討
第5回	平成26年 2月12日	1. 潜在看護職の掘り起しについての検討	・潜在看護職への看護師不足の現状をアピールする ・ナースセンターの広報の在り方の検討 ・ハローワークとの連携の在り方 ・地区での就業相談 ・復職するためにどのような支援が必要かを提案
第6回	3月12日	1. 平成25年度のまとめ	・諮問事項に基づいた提案事項の確認

医療安全委員会

委員長 小賀坂 好子

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>安全な看護を提供するためのチーム医療を推進する戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム医療推進のための行政、関係機関等の連携 ・ 組織で取り組む安全文化の醸成
<p>現状と課題</p>	<p>医療安全推進対策の組織的な取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム医療を推進するための他職種との連携強化 ・ 関係機関との連携 ・ 医療安全を推進する組織体制づくり
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：7回開催（別紙に詳細を記載）〕</p> <p>千葉県内の医療安全管理に関する実態把握のためのアンケート調査を行い、その分析結果から</p> <ol style="list-style-type: none"> ①他職種との連携の方策を検討する。 ②千葉県内の病院の現状から課題や展望を整理する。 ③行政及び他職種団体と看護協会との協働のあり方を検討する。 ④各施設との情報交換・ネットワークの構築についての課題が抽出された。 <p>今後の医療安全推進に繋がる連携の第一歩としてアンケート調査の結果及び課題を行政、他職種に周知する方策についての企画・検討を実施した。</p>
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県内の医療安全管理に関する実態の周知及び課題についての取り組みを「医療安全大会」で報告、提言していくこととして、具体的には、以下の①から④のとおり行った。 <ol style="list-style-type: none"> ① アンケートの結果及び課題を抽出し、報告を行うとともにポスター展示をした。 ② 行政・他職種から「連携についての現状と課題・展望」についての報告とディスカッションできるシンポジウムの企画・運営をした。 ③ インシデントの集計・分析に施設間の格差があることから効率化のためのインシデント報告システムの紹介と操作体験コーナーを設置した。 ④ 「多職種連携で前進する医療安全」をテーマに施設の医療安全推進に繋がる講演を企画・運営した。 2. 各施設との情報交換・ネットワークの構築については、賛同の得られた施設に対し、協会とメールによる情報交換ができる体制を整えた。
<p>今後の課題</p>	<p>「医療安全大会」の運営に向けて、行政と関係機関等との連携や組織で取り組む安全文化の醸成、チーム医療の推進につながる効果的で発展的な提言を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「他職種との連携」の具体的な推進について 2. 各施設との情報交換について 3. 「医療安全推進のための標準テキスト」の普及・啓発について

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成25年 5月14日	①「医療安全管理に関する調査」集計結果報告 ②平成25年度活動計画について ③第9回 医療安全大会について	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について資料をもとに協会より報告があり、集計方法について意見交換を行った。 ②今年度の委員会開催日程について計6回を予定した。 ③11月の開催とし、開催場所は検討中。多職種参加型の大会を目指し、テーマ及び内容について検討した。
第2回	6月11日	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について・アンケート集計結果の分析方法について ②平成25年度活動計画について ③第9回 医療安全大会 (11/4) について、大会テーマについての検討	①「医療安全管理に関する調査」再集計結果について資料をもとに協会より報告があり、意見交換を行った。委員によりデータの分析及び考察を行うこととなった。 ②次回委員会までに活動計画案を作成することとなった。 ③11月4日（祝）幕張メッセ国際会議場での開催が決定した。テーマ及び内容について検討し、広報活動について意見交換を行った。
第3回	7月9日	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について・分析からの検討 ②平成25年度活動計画について ③第9回 医療安全大会について・大会の内容についての検討	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について、高橋委員より資料をもとに報告があり、意見交換を行った。 ②年間活動計画について確認、2月4日（火）に第7回委員会開催とし、活動のまとめ等を行うこととした。 ③テーマは「多職種連携で前進する医療安全」に決定した。「医療安全管理に関する調査」の結果発表および他職種にも興味を持ってもらえるような講演の企画、インシデントレポート入力システム取扱い企業による展示とランチョンセミナーによる機器説明を行うことで検討した。医療安全に関する標語募集については、7月9日（火）発送、8月16日（金）締切で選定を行う。
第4回	9月10日	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について・分析からの検討とまとめ ②第9回 医療安全大会について・医療安全に関する標語の選定 ③委員会活動中間報告について選定	①医療安全大会に向け「医療安全管理に関する調査」集計の検討を実施した。 ②医療安全大会のプログラムについて進捗状況の確認及び検討を実施した。また、医療安全の標語選定を実施した。結果については次回（10/8）となる。
第5回	10月8日	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について・分析からの検討とまとめ ②第9回 医療安全大会について・大会当日の活動 ③委員会活動中間報告について	①「医療安全管理に関する調査」集計結果について検討し大会へ向けての確認を実施した。 ②医療安全大会での運営について検討、最終的に10月17日19時最終打ち合わせとした。
第6回	12月10日	①第9回 医療安全大会について・結果及び評価と、次年度の医療安全大会について ②平成25年度の活動のまとめと次年度の課題	①第9回医療安全大会について結果及び評価について意見交換を実施し、次年度に向けての方向性をまとめた。 ②平成25年度の活動について意見交換をした。
第7回	平成26年 2月4日	①平成25年度活動のまとめと次年度の課題	①1月28日に実施された医療安全担当者交流会について評価、次年度への方向性について話し合った。 ②平成25年度の諮問事項について意見交換を行った。

広 報 委 員 会

委員長 鈴木 眞奈美

I 活動のまとめ

<p>諮 問 事 項</p>	<p>県民に看護について理解を得るための広報戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民への広報戦略（何を、どんな目的で広報していくか） ・ 会員増に向けた広報戦略
<p>現 状 と 課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県民への広報：協会の役割や看護の心の普及については、看護の日やまちの保健室、心の総合相談窓口等で実施してきているが、未だ十分とは言えない現状にある。 2. 会員増に向けた広報：年4回発刊の「看護ちば」や研修会の開催等を通して非会員へ向けて協会の仕事や社会的役割等を発信しているが、保健師や准看護師の会員数の伸び悩み、経験10年前後の会員数の減少等に課題がある。
<p>検 討 内 容</p>	<p>〔委員会開催状況〕 6回開催</p> <p>〔検討内容・過程〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県民に向けた長期的広報戦略 2. 県民に向けた短期的広報戦略 3. 会員増に向けた広報戦略
<p>検 討 結 果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県民向けの広報戦略 <ol style="list-style-type: none"> ①長期的な戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保助看、職種別の具体的な仕事内容の広報：県民がどこでも気軽に相談できる体制整備として、保健師・看護師・助産師の役割を広報して具体的な役割を知ってもらう。 ・ 若者への広報：facebook等のSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用し、若い世代にも行き届くよう媒体を工夫する。 ・ 「まちの保健室」での効果的な広報を検討する。（県民が集まる行事に積極的に参加し広報する。現状は、道の駅、マラソン大会などに参加している地区もあるが、文化祭・各種イベントなどにも参加できるよう検討する） ②短期的な戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の情報発信や地域活動を実施している町内会や自治会への広報 ・ 塾・稽古場などにポスターを掲示し、父兄への広報を図る。 ・ 「まちの保健室」の開催場所を多くの県民が集まる場所で実施する。例えば、道の駅・イベントの会場等に出向いて実施。内容も当該地域の健康課題やBLS(一次救命処置)等を盛り込む等充実する。 ・ 病児保育を行っている施設の一覧表を作成し保育施設等へ配布、広報する。 2. 会員増に向けた広報戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設等で働く看護職対象のキャリアアップ研修等を今以上に充実させる。 ・ 多様な勤務形態を導入している施設をポスター等で広報するなど、雇用形態をポスターに盛り込む。 ・ ポスターに看護協会は無料職業紹介であることを提示。 ・ 会員のいない介護施設へ入会パンフレットを送付する等入会を働きかける。 ・ facebook等のSNSの活用（千葉県看護協会のページ作成） ・ ホームページの充実の検討 ・ マラソン大会等に看護協会として参加した場合、千葉県看護協会としてのゆるキャラやマーク等があると県民にアピールしやすい。 ・ イベントで配布するグッズに協会をアピールできるものがあるとよい。
<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民向けの広報について、長期・短期的な戦略の具体的な方策について検討が必要である。 ・ 会員増に向けた広報戦略は他県等も参考にしながら効果的な戦略を練る必要がある。

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成25年 5月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度年間スケジュールの作成 2. 職業体験や出前授業の具体的広報戦略について 3. 県民向けの広報について 4. 会員増促進の具体的戦略について 5. 潜在看護職の掘り起しについて 6. 定年退職後の看護職が協会員を継続するための戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に向けての広報の強化 ・ふれあい看護体験のPR強化 ・職種別の具体的仕事内容の広報 ・定年退職後の看護職の協会員継続に向けての戦略等
第2回	6月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会員増に向けた広報戦略について 2. 県民向けの広報戦略について 3. 職業体験や出前授業の具体的広報戦略について 	<ul style="list-style-type: none"> ・賠償保険等メリットのPR ・地区部会との連携 ・県民向け研修会の開催等
第3回	9月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会員増に向けた広報戦略について 2. 県民向け広報について 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、賠償保険加入などのメリットをもっとPRするのはどうか。 ・ホームページの充実 ・まちの保健室のPRの強化等
第4回	11月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県民向け広報について 2. 会員増に向けての広報 3. 中間事業実績まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校向け広報の強化 ・SNSの活用等の検討 ・ホームページの充実等 ・中間報告書の作成
第5回	平成26年 1月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な広報戦略について 2. 介護施設で働く看護職に向けての具体的カリキュラムの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な広報とは（看護ちば、看護の日、小学生対象の広報など） ・小学生対象の広報について ・介護施設で働く看護職に向けての具体的カリキュラムの検討について
第6回	3月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度事業実績まとめ 2. 次年度の課題について 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間報告書の作成

会員増促進委員会

委員長 長谷川 美穂

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>会員を増やすための戦略</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員増の具体的方策について 2. 会員増を考慮した協会事業の進め方について
<p>検討内容</p>	<p>〔委員会開催状況〕 5回開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象別アンケート調査の実施と分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 未継続者・退会者向けのアンケート (2) 教育機関教務担当者向けのアンケート (3) 准看護師向けのアンケート
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設等会員代表者会議の活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会員増促進委員会からのアプローチ (2) 産前・産後・育児休暇中の会員への呼びかけ (3) 各施設の入会への取り組みの紹介 2. 看護教育機関の式典（戴帽式）への出席や説明会の強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地区部会への出席依頼 (2) 看護協会についての説明会 (3) 千葉県看護学校協議会への呼びかけ 3. 准看護師へのはたらきかけ <ol style="list-style-type: none"> (1) 地区部会での研修の企画依頼 (2) ナースセンターの周知徹底、進学情報の提供 4. 同一年度内の他県入会者の年会費の免除（平成27年度より）
<p>今後の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設等会員代表者会での入会アプローチ（継続） 2. 看護教育機関への入会アプローチ（継続） 3. 精神領域病院への入会アプローチ（継続） 4. 各委員会との連携（継続） 5. 保健師職能領域への入会アプローチ

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成25年 5月21日	1. 平成25年度会員増促進委員会の活動について 2. アンケート・会員増戦略（案）の確認	1. 対象別アンケートの実施方法 2. アンケート内容について審議
第2回	9月10日	1. アンケート調査結果の確認①	1. 看護教育機関向け及び准看護師向けのアンケート結果を受けた審議
第3回	10月17日	1. アンケート調査結果の確認② 2. 中間事業実績のまとめ（報告書の作成）	1. 未継続会員・退会者向けのアンケート結果を受けた審議 2. 平成25年度中間事業報告書の作成
第4回	12月19日	1. 施設代表者会での入会への取り組み事例の紹介について 2. 千葉県看護学校協議会でのアプローチについて 3. 中間事業実績のまとめ（報告書の作成）	1. 施設代表者会で紹介する施設の検討 2. 千葉県看護学校協議会への出席報告 3. 平成25年度中間事業報告書の確認
第5回	平成26年 3月20日	1. 平成25年度 会員増促進委員会活動のまとめについて	1. 成田赤十字看護学校での説明についての報告 2. 施設代表者会での入会促進の取り組みの報告 3. 平成25年度委員会活動と今後の会員増促進について

推 薦 委 員 会

委員長 宮本 幸枝

I 活動のまとめ

<p>諮 問 事 項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 平成25年度看護師職能委員の推薦に関すること（増員3名） 平成26年度に改選する役員、職能委員、推薦委員の候補者の推薦に関すること 平成27年度公益社団法人日本看護協会通常総会代議員候補者の推薦に関すること
<p>現状と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 職能委員会設置運営規定の改正に伴う看護師職能委員の推薦（3名増員）を8月時点で推薦し理事会にて承認された。 平成26年度に改選する役員13名（会長1名、副会長1名、常任理事2名 看護師職能理事1名、助産師職能理事1名、理事6名、監事1名）職能委員10名（保健師4名、助産師2名、看護師4名）、推薦委員7名について候補者を推薦する。 平成27年度公益社団法人日本看護協会総会代議員候補者について、平成25年6月現在の会員数を目安として検討をし、その後12月時点で再確認し、前年度より1名増加した27名の代議員候補者の調整を行った。平成26年3月に全ての候補者が出そろったため推薦する。
<p>検 討 内 容</p>	<p>〔委員会開催状況〕 5回 開催（内1回はメール会議）</p> <p>〔検討内容・過程〕 諮問事項について年間計画を立案し、役割分担をし、進めた。</p>
<p>検 討 結 果</p>	<p>平成26年度に改選する役員11名、職能委員9名、推薦委員7名を推薦することとなったが、県職員などは人事異動の決定が3月中旬以降とのことで、ぎりぎりまで了解が得られなかった。また保健師は多くの人が協会に入っていない現状もあった。そのため、人選に苦慮したが、計画通りに推薦できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成26年度に改選する役員13名（会長1名、副会長1名、常任理事2名 看護師職能理事1名、助産師職能理事1名、理事6名、監事1名）職能委員10名（保健師4名、助産師2名、看護師4名）、推薦委員7名について候補者を推薦した。 平成27年度公益社団法人日本看護協会総会代議員候補者については、見込み数を26名と見込んでいたところ、日本看護協会から27名の候補者推薦依頼があり、12月末の会費納入者数により再調整を行い保健師4名、助産師4名、看護師44名、准看護師2名、合計54名の代議員・予備代議員候補者の推薦を行った。
<p>今後の課題</p>	<p>協会運営上、役員や委員等の行事や会議の参加は頻回で負担が大きいと考えられるが、今後は中央に参集する会議のみでなく、Web会議やメール会議等を視野にいれると、スムーズな業務の実施や進捗等ができるようになるのではないかと考える。施設代表者においては、施設内の重要な役割上、時間の調整が難しいことが多々あると思われるが、協会の活動にご理解を頂き、多くの優秀な人材が協会の活動に参加できるよう配慮をお願いしたい。</p>

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成25年 8月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長・副委員長・書記の選任について 2. 推薦委員会の役割について 3. 諮問事項について 4. 委員会活動報告等について 	<ul style="list-style-type: none"> • 諮問事項、委員会規定の確認 • 委員長・副委員長・書記の決定 • 年間活動計画立案 • 分担作業
第2回	10月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現任役員の再任について 2. 平成27年度日本看護協会代議員の選出について 	<ul style="list-style-type: none"> • 現任役員の再任の意向の確認 • 会員数の確認、地区と職能割合の検討
第3回	12月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員・職能委員・推薦委員候補者の人選と検討について（現任理事・職能委員の再任の意向確認を受けて） 	<ul style="list-style-type: none"> • 役員・職能委員・推薦委員候補者の人選と検討
第4回	平成26年 1月31日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員・職能委員の選出について 2. 推薦委員の選出について 3. 平成27年度日本看護協会通常総会代議員数の改定について 	<ul style="list-style-type: none"> • 役員・職能委員・推薦委員候補者の人選と検討 • 会員数の確認、地区と職能割合の検討と調整
第5回	3月27日 メールにて 検 討	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役員・職能委員・推薦委員候補者の検討 2. 活動報告書のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> • 役員・職能委員・推薦委員候補者最終決定 • 活動報告書作成と承認

特別委員会報告

ナースセンター運営委員会

委員長 松永 敏子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について、協議することを目的として設置している。本年度は、11名の委員で1回開催した。

議事は、前年度の事業実績と本年度の事業計画、さらに看護職の定着・確保のための方策としての「看護師等就業協力員支援事業（仮称）」についてであった。又、看護学生の職場選択には実習の受け入れ態勢の充実が肝要であること、合同就職説明会の地区別開催は潜在看護師の掘り起しに効果的であり今後も強化・推進すること、ハローワークとの連携等を含めたナースセンター事業運営について等の意見交換がされた。また、これらの事業推進のためにも「看護師等就業協力員支援事業（仮称）」の検討の必要性が示唆された。このことについては、委員会を立ち上げて具体化していくことで了承を得られた。

認定看護管理者制度教育課程 運営委員会

委員長 吉田 千文

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者制度教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画・運営及び修了審査に関する審議機関として設置されている。平成25年度の委員構成は教育関係者5人、看護管理者2人、協会担当者2人の合計9人である。委員会開催は4回（書面会議1回を含む）で、審議・報告事項は以下のとおりである。

【第1回 平成25年7月30日】

1. 平成25年度第32回認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程（以下ファーストレベル）の進捗状況
2. 平成25年度第13回認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程（以下セカンドレベル）の実施要項の検討、受講者選考、日本看護協会認定看護管理者制度基準カリキュラム（以下、基準カリキュラム）改正に伴う本会カリキュラム改正および講師選定
3. 平成24年度第12回セカンドレベル修了者の看護管理実践報告発表会
4. カリキュラム改正に伴う運営規程及び細則の改正

【第2回 平成25年9月9日（書面）】

第32回ファーストレベルの修了審査

【第3回 平成26年1月17日】

1. 第13回セカンドレベル修了審査
2. ファーストレベル・セカンドレベル受講者選考基準並びに運営規程および細則の改正

【第4回 平成26年4月21日】

1. 平成26年度第33回ファーストレベル受講者選考
2. 日本看護協会認定看護管理者制度教育機関認定要件の変更と本会の機関運営について
3. 平成26年度ファーストレベル・セカンドレベル開講準備状況

【今年度実績】

1. 第32回ファーストレベル開催（6.10～7.19）
修了者95名（受講者全数）
2. 第13回セカンドレベル開催（9.9～11.26）
修了者30名（受講者全数）
3. 第12回セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会開催（H25.9.22）
修了生27名中23名
4. 基準カリキュラム改正に伴う、本会の運営規程および細則の改定を行った。

メ 毛

平成26年度千葉県看護協会会長表彰

氏名	施設名	氏名	施設名
馬場 由美子	千葉大学医学部附属病院	横村 妙子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
村松 美英	千葉大学医学部附属病院	石田 智恵子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
中嶋 征子	千葉大学医学部附属病院	開保津 貴子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
正木 治恵	千葉大学大学院	白井 正枝	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
小出 あおい	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	川尻 絹江	医療法人愛の家 高根台病院
白鳥 美幸	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	青木 佳代子	公益財団法人復光会 総武病院
鈴木 幸子	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	鈴木 才枝	公益財団法人復光会 総武病院
菅野 美穂	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	高橋 信子	医療法人同和会 千葉病院
飯田 京子	千葉市立青葉病院	渡辺 しのぶ	社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会 船橋二和病院
岡田 扶佐江	千葉市立青葉病院	下田 すみ子	独立行政法人 国立国際医療研究センター 国府台病院
十二里 智子	千葉県救急医療センター	清家 恵美子	東京歯科大学市川総合病院
比田井 理恵	千葉県救急医療センター	長谷山 広美	東京歯科大学市川総合病院
川瀬 やい	医療法人社団普照会 井上記念病院	鈴木 たまえ	公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター
金敷 美和	千葉県がんセンター	三枝 多可子	国保松戸市立病院
岩井 由美子	千葉県がんセンター	佐久間 るり子	国保松戸市立病院
天野 規子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	小林 久乃	国保松戸市立病院
細川 優子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	漣 美奈子	国保松戸市立病院
工藤 武	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	関 保子	国保松戸市立病院
植松 雅子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	久保田 ひとみ	国保松戸市立病院
中嶋 明美	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	栗原 つぎ子	国保松戸市立病院
松井 ひとみ	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	小倉 厚子	国保松戸市立病院
池田 淳子	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	神 尚子	日本大学松戸歯学部付属病院
大江 千代子	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	土屋 光恵	日本大学松戸歯学部付属病院
池畑 久美子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	薄井 敏憲	IMSグループ 医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院
小池 幸子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	中山 伸子	IMSグループ 医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院
小関 広美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	三好 恵	キッコーマン総合病院
宮原 陽一	千葉県千葉リハビリテーションセンター	石川 雅美	キッコーマン総合病院
岡田 眞知子	JFEスチール(株)東日本製鉄所 千葉健康管理センター	衣川 陽子	野田市関宿保健センター
白木 文代	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	指田 文子	成田赤十字病院
鈴木 佐代子	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	赤間 由美子	成田赤十字病院
入江 真奈美	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	板倉 百合子	成田赤十字病院
村上 百合子	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	石橋 良枝	成田赤十字病院
君山 京子	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	島田 加奈子	成田赤十字病院
鈴木 紀代美	独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院	伊藤 和美	成田赤十字病院
大岩 ケイ子	市原市保健センター	花澤 映子	成田赤十字看護専門学校
加藤 栄子	市原健康福祉センター	山口 美恵	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院
前島 直美	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院	上田 由美	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院
武田 靖男	習志野健康福祉センター	米光 和子	独立行政法人国立病院機構 下志津病院

氏名	施設名	氏名	施設名
仲谷 恵理	独立行政法人国立病院機構 下志津病院	笹子 良子	国保直営総合病院 君津中央病院
山口 克巳	独立行政法人国立病院機構 下志津病院	杉田 清愛	国保直営総合病院 君津中央病院
関根 一江	医療法人積仁会 島田総合病院	鹿島 尚子	国保直営総合病院 君津中央病院
結城 久子	医療法人積仁会 島田総合病院	松浦 良子	国保直営総合病院 君津中央病院
高岡 真佐枝	医療法人積仁会 島田総合病院	早弓 ちとせ	国保直営総合病院 君津中央病院
川村 紀子	千葉県立佐原病院	佐藤 都志子	国保直営君津中央病院 大佐和分院
鈴木 友子	千葉県立佐原病院	渡邊 京美	社会医療法人社団木下会 館山病院
石毛 正美	総合病院国保旭中央病院	北浦 寿子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
椎名 寿恵	総合病院国保旭中央病院	植田 玉枝	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
大橋 佐知子	総合病院国保旭中央病院	関川 志保	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
土佐 美穂	総合病院国保旭中央病院	丸山 祝子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
綿貫 美恵	総合病院国保旭中央病院	鴫田 猛	学校法人鉄蕉館 亀田医療技術専門学校
菅谷 志津	総合病院国保旭中央病院	竹林 由美子	医療法人光洋会 三芳病院
秋葉 由美	総合病院国保旭中央病院	高梨 彰一	医療法人光洋会 三芳病院
萩原 君子	総合病院国保旭中央病院	小笠原 和子	公益財団法人日産厚生会 佐倉厚生園
石毛 明子	総合病院国保旭中央病院	戸倉 名代美	医療法人社団晴山会 平山病院
福森 明美	総合病院国保旭中央病院	長岡 幸江	船橋市立医療センター
加瀬 昌子	総合病院国保旭中央病院	井上 薫	船橋市立医療センター
江ヶ崎 義子	総合病院国保旭中央病院	藤倉 妙子	船橋市立医療センター
大里 美佐子	国保多古中央病院	庄田 由美	船橋市立医療センター
山瀬 礼子	国保多古中央病院	小泉 美保子	船橋市立医療センター
鎗田 洋子	国保小見川総合病院	中豊留 美恵子	医療法人社団上総会 山之内病院
伊藤 明子	国保小見川総合病院	内田 てる美	医療法人財団東京勤労者医療会 東葛病院
藍 扶二子	山武健康福祉センター	斉藤 和子	医療法人財団東京勤労者医療会 東葛病院
中川 千冬	地方独立行政法人 さんむ医療センター	多田 洋子	医療法人財団東京勤労者医療会 東葛病院
高橋 恵子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	山崎 由美子	医療法人財団東京勤労者医療会 東葛病院
能戸 孝子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	佐々木 亜子	順天堂大学医学部附属浦安病院
野口 いわ	大網白里市立 国保大網病院	松川 菜穂美	千葉市立海浜病院
小栗 久恵	大網白里市立 国保大網病院	石井 由紀子	千葉市立海浜病院
長島 春美	大網白里市立 国保大網病院	土屋 恵子	千葉市立海浜病院
沢村 美代子	大網白里市立 国保大網病院	石井 久美子	医療法人社団協友会 柏厚生総合病院
伊藤 俊子	大網白里市役所	石川 淳子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
工藤 ふみえ	公立長生病院	鳥飼 紀子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
吉井 さと子	公立長生病院	在原 明美	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
関 美知代	いすみ医療センター	中田 いと	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
及川 美智代	国保直営総合病院 君津中央病院	佐藤 まゆみ	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
柴田 明美	国保直営総合病院 君津中央病院	佐藤 和子	医療法人芙蓉会 五井病院
斉藤 ゆう子	国保直営総合病院 君津中央病院	市原 恵美子	医療法人三矢会 八街総合病院

氏名	施設名	氏名	施設名
松井明代	医療法人三矢会 八街総合病院	金高洋子	千葉県循環器病センター
園田深雪	医療法人三矢会 八街総合病院	八島純子	千葉県循環器病センター
熊谷峰子	医療法人三矢会 八街総合病院	難波照美	千葉県循環器病センター
安井和代	医療法人三矢会 八街総合病院	積田和子	千葉県循環器病センター
伊東多鶴子	東京歯科大学千葉病院	菊池美香	千葉県循環器病センター
川口久美子	東京慈恵会医科大学附属柏病院	新井加代子	医療法人社団心和会 介護老人保健施設 荒井記念ホーム
飯田結花	東京慈恵会医科大学附属柏病院	出口悦子	訪問看護ステーションたてやま
中山恭子	東京慈恵会医科大学附属柏病院	庄司由美子	訪問看護ステーションたてやま
笠松恵理子	医療法人沖縄徳洲会 千葉徳洲会病院	吉村靖子	医療法人財団銚子市立病院再生機構 銚子市立病院
嶋村有子	医療法人思誠会 勝田台病院	市川雅子	医療法人社団誠馨会 セコムメディック病院
田中和代	医療法人社団有相会 最成病院	衛藤美智子	医療法人社団弥生会 旭神経内科リハビリテーション病院
仲田千代美	医療法人社団誠馨会 総泉病院	村島育子	豊富・坪井地域包括支援センター
吉田厚子	医療法人社団誠馨会 総泉病院	三上明子	千葉市青葉看護専門学校
早野晴美	千葉県こども病院	小澤恵子	介護老人保健施設 ゆうあい苑
山本美智代	千葉県こども病院	秋山恵子	千葉県健康福祉部 健康づくり支援課
村田孝子	千葉県こども病院	田中由佳	千葉県健康福祉部 健康づくり支援課
高橋孝子	医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院	宮崎とよ子	外房こどもクリニック
豊田設子	医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院	青木いずみ	安房医療福祉専門学校
北幾子	医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院	宮原サワ	個人会員
工藤綾子	順天堂大学医療看護学部	宮沼順子	個人会員
青木きよ子	順天堂大学医療看護学部	渡邊敏子	個人会員
伊藤由美子	社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院	中澤典子	個人会員
安蔵早苗	医療法人社団健脳会 千葉脳神経外科病院	大神ヨシ子	個人会員
金子奴志子	独立行政法人 国立がん研究センター東病院	小嶋昌子	個人会員
佐野音羽	独立行政法人 国立がん研究センター東病院	神山邦子	個人会員
石井聡子	独立行政法人 国立がん研究センター東病院	高橋恵美	個人会員
田畑恭子	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	石井一枝	個人会員
小倉恵美	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	赤澤陽子	個人会員
木村五子	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	吉垣公子	個人会員
関口明美	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	若菜さゆり	個人会員
高貫信子	医療法人社団聖光会 聖光会病院	西裕子	個人会員
鈴木真由美	日本医科大学千葉北総病院	諏訪明子	個人会員
平川公子	医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院	米田弘美	個人会員
渡邊光子	医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院	平岡恵美子	個人会員
杉原幸子	国保君津中央病院地域医療センター	安藤優子	個人会員
青木由美	医療法人社団 慶勝会 なのはな訪問看護ステーション	嶋村絹子	個人会員
横山千佳	医療法人社団良知会 共立習志野台病院	市原真穂	個人会員
大坂妙子	ほほえみ訪問看護ステーション	佐藤早苗	個人会員

氏 名	施 設 名
安 藤 智 子	個人会員
戸 田 なを子	個人会員
渡 邊 庸 子	個人会員
計 231名	

第32回千葉県看護研究学会 優秀演題会長表彰者

最優秀賞	島田里美	医療法人社団有相会 最成病院	「床上安静を強いられる患者の便秘に対する看護師の認識と対応 患者の床上排泄に関連した聞き取り調査を通して」
優 秀 賞	伊藤友美	船橋市立医療センター	「就職後1年目の新人看護師のリアリティショックの認知と対処についての実態調査」
	田染雄一	日本医科大学 千葉北総病院	「CAG・PCI臨床パス改定に向けた検討 第二報 患者教育に向けたセルフチェックシートの活用」
	大森秀文	東邦大学医療センター 佐倉病院	「A病院におけるエンゼルケアの実態調査」

看護職員の表彰

1. 叙勲その他の国の表彰

平成25年度 秋の叙勲

瑞宝双光章 齋藤 葉子 元総合病院国保旭中央病院看護部長
瑞宝単光章 櫻井マツ子 元千葉中央メディカルセンター看護部長

平成26年度 春の叙勲

瑞宝単光章 佐藤 静子 元松戸市立福祉医療センター東松戸病院 看護局長

2. 平成26年度千葉県看護功労者知事表彰

助産師 飯泉 良枝 成田赤十字看護専門学校
看護師 大沼 順子 国保松戸市立病院附属看護専門学校
看護師 勝又 泰子 社会保険船橋中央病院
(現 独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院)
看護師 小島 英子 医療法人社団一心会 初富保健病院
看護師 櫻井 和子 さくら訪問看護ステーション
看護師 鈴木とよ子 国立大学法人千葉大学医学部附属病院
看護師 鈴木 文江 国保小見川総合病院
看護師 関川 文代 地方独立行政法人さんむ医療センター
看護師 塚原 信江 元 社会福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
保健師 松永 敏子 公益社団法人千葉県看護協会
看護師 森岡しずか 船橋市立医療センター

3. 平成26年度日本看護協会会長表彰

山木 まさ 公益社団法人千葉県看護協会
平山真理子 君津中央病院附属看護学校
竹内美佐子 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院
川井 文子 安房医療福祉専門学校

(以上、敬称略。会員のみ掲載。)

平成25年度 事業の実施状況

I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業

1. 生涯教育

(1)生涯教育の実施状況（平成25年度生涯教育研修参加状況表参照）

今年度は、当初計画した研修60コース（トピックス1研修を除く）に、受講生のステップアップをねらいとしたフォローアップ研修等、継続研修として3コースを追加し63コースを実施。研修回数91回、研修総日数512日、受講者実数 7,823名であった。

教育計画のカテゴリー別実施状況の内訳は 以下のとおりである。

- | | | | | |
|---|-------|-----|------|--------|
| ①資格認定教育 | 6コース | 9回 | 277日 | 572名 |
| ・ 認定看護管理者制度教育課程 (内訳) | | | | |
| ファーストレベル教育課程 | 1コース | 1回 | 28日 | 95名 |
| セカンドレベル教育課程 | 1コース | 1回 | 36日 | 30名 |
| ・ 医療安全管理者養成研修 | 1コース | 1回 | 7日 | 107名 |
| ・ 心肺蘇生法トレーニングコース（BLS） | 1コース | 4回 | 4日 | 224名 |
| ・ 看護教員養成課程 | 1コース | 1回 | 162日 | 37名 |
| ・ 実習指導者講習会 | 1コース | 1回 | 40日 | 79名 |
| ②ステップアップ教育 | 26コース | 44回 | 158日 | 3,695名 |
| (内訳) | | | | |
| ・ 段階別研修(新人、2年目、中堅、管理者等) | 16コース | 33回 | 99日 | 2,787名 |
| ・ 領域別研修(感染、災害、がん、認知症等) | 10コース | 11回 | 59日 | 908名 |
| ③看護実践教育 | 28コース | 34回 | 73日 | 2,958名 |
| ④追加研修 | 3コース | 4回 | 4日 | 598名 |
| (精神・身体疾患併発患者診療機能支援事業フォローアップ研修、看護必要度一ステップアップ研修・評価者院内指導者研修、平成26年度社会保険診療報酬改定説明会) | | | | |
| ⑤今年度の千葉県委託研修(再掲)は12研修21コース実施。新規に研修開催したものは以下の7研修である。 | | | | |
| ア 看護教員養成課程 | | | | |
| イ 実習指導者講習会 | | | | |
| ウ 地域・在宅看護実習指導者講習会 | | | | |
| エ 看護教員継続研修（教育方法・新人・中堅） | | | | |
| オ 管理者クラス保健師研修会 | | | | |
| カ 認知症看護専門職研修（初心者・中堅・指導者） | | | | |
| キ 平成25年度精神・身体併発患者診療機能支援事業一フォローアップ研修 | | | | |

(2)まとめ

定員に対して特に応募の多かった研修は「実習指導者講習会、見直されてきた外来看護、看護職のためのアロマセラピー、認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程、初めて取り組む看護研究Ⅰー基礎編Ⅰ、高齢者に起こりやすい機能低下と生活を支える看護、最新の褥瘡予防とケア、そしてフレッシュセミナー」であった。

高齢化社会を見据え、臨床現場の看護実践に活用できる研修や看護職のキャリアの発展に寄与する研修が、会員のニーズに合ったと思われた。

特に実習指導者講習会や外来看護に関しては、定員に対し2～3倍の応募者であったため、皆様の要望を全面的に受け入れ、全員受講できるようにしたとともに、研修効果を考慮して研修会場や講師数の調整を行った。

今後は医療体制の変化や看護情勢を把握して、ニーズの高い研修の選定・企画をすること、学習スペースの確保・文献等の情報提供の充実、日数と講師数の調整などの学習環境の整備が求められる。

3 看護 実践 教育	36	57	母乳育児 (№13-E新人助産師と合同研修)	1	H25.9.17	30	23	23	23	14	0	9	0	0	0	0	0	0	
	37	58	師のキャリアパス・クリニカルラダーの基礎的理解	1	H25.12.14	50	29	29	29	0	0	18	7	1	3	0	0	0	
	38	59	一般外来におけるうつ症状の早期発見と対応のポイント	2	H25.5/18-6/1	40	26	26	21	0	1	1	0	19	0	0	0	0	
	39	60	うつ傾向にある患者への関わり方	2	H25.12/11・12	120	109	109	105	0	0	3	0	97	1	4	0	0	
	40	61	退院支援研修 -地域と施設の相互交流-			40	84	77	77	0	0	0	0	73	3	1	0	0	
	41	62	生活をつなぐ退院支援(基礎編)	A	2	H25.11/14・15	150	139	139	127	1	0	2	0	122	0	2	0	
			生活をつなぐ退院支援(基礎編)	B	2	H25.11/14・15	80	11	11	11	1	0	0	0	8	1	1	0	
			生活をつなぐ退院支援(基礎編)	C	2	H25.11/14・15	40	16	16	16	0	0	0	0	16	0	0	0	
	42	63	高齢者の理解と認知症患者への対応(基礎編)	A	2	H25.8/8-9	150	100	100	97	1	0	3	0	87	1	4	1	
			高齢者の理解と認知症患者への対応(基礎編)	B	2	H25.8/8-9	40	12	12	11	0	0	0	0	10	0	1	0	
			高齢者の理解と認知症患者への対応(基礎編)	C	2	H25.8/8-9	40	14	14	14	0	0	0	0	12	1	1	0	
	43	64	社会福祉施設における看護の役割と実際	1	H25.9.2	30	37	37	32	0	0	0	0	27	0	4	1	0	
	44	65	高齢者に起こりやすい機能低下と生活を支える看護	1	H26.3.14	150	174	158	148	1	0	2	0	122	3	20	0	0	
	45	66	手術看護 -外回り看護のエビデンスを学ぶ-	1	H25.11.2	120	146	146	138	0	0	0	0	122	3	13	0	0	
	46	67	急性期の看護-呼吸器に強いナースを指そう-	A	2	H26.1/23・24	150	61	61	60	0	0	2	0	58	0	0	0	
	46	68	急性期の看護-呼吸器に強いナースを指そう-	B	2	H26.2/13・14	150	173	161	153	0	0	0	0	146	1	5	1	
	47	69	在宅緩和ケア -施設から在宅へ-	4	H25.7/1・3・8/30 (実習1日)	30	26	26	25	0	0	0	0	24	0	1	0	0	
	48	70	穏やかな看護取りへのケア	A	1	H26.2.3	150	128	128	115	2	0	0	0	110	1	2	0	
	48	71	穏やかな看護取りへのケア	B	1	H26.2.4	150	117	117	114	1	0	1	0	101	3	7	1	
	49	72	見直されてきた外来看護	1	H25.12.12	40	146	146	134	1	0	2	0	120	5	5	1	0	
	50	73	フィジカルアセスメント(基礎編)	A	2	H25.6/13・14	150	94	94	93	1	0	1	0	85	3	3	0	
			フィジカルアセスメント(基礎編)	B	2	H25.6/13・14	40	33	33	33	4	0	0	0	26	2	1	0	
			フィジカルアセスメント(基礎編)	C	2	H25.6/13・14	40	12	12	12	0	0	0	0	10	1	1	0	
	51	74	摂食・嚥下障害を持つ患者の看護	A	2	H25.8/29-30	120	84	84	79	1	0	0	0	70	0	8	0	
			摂食・嚥下障害を持つ患者の看護	B	2	H25.10/26-29	120	131	131	122	0	0	0	0	112	0	9	1	
	52	76	看護師としての成長を支える自己の振り返り-リフレクション-	1	H26.3.18	120	94	94	84	0	0	1	0	80	2	1	0	0	
	53	77	医療安全基礎 -やってみよう危険予知トレーニングKYT-	A	1	H25.10.13	120	114	114	110	0	0	3	1	102	2	2	0	
	53	78	医療安全基礎 -やってみよう危険予知トレーニングKYT-	B	1	H24.9.14	120	105	105	98	0	1	1	0	83	3	9	1	
	54	79	糖尿病患者のセルフケア支援	A	1	H25.12.2	150	113	113	107	6	0	0	0	91	4	6	0	
			糖尿病患者のセルフケア支援	B	1	H25.12.13	150	65	65	59	1	0	0	0	54	1	3	0	
	55	81	最新の褥瘡予防とケア	A	2	H25.12/3-4	150	191	158	151	3	0	0	0	138	4	4	2	
			最新の褥瘡予防とケア	B	2	H26.2/10・12	150	155	155	141	1	0	1	0	132	0	7	0	
	56	83	看護職のためのアロマセラピー	1	H26.2.27	120	187	126	118	4	0	5	0	104	2	3	0		
	57	84	禁煙支援者研修	1	H26.2.19	40	50	50	48	1	0	0	0	43	1	3	0		
	58	85	看護職の倫理的責任・法的責任研修会	2	H26.2/20・21	150	109	109	102	1	0	1	0	99	1	0	0		
	59	86	看護補助者教育責任者研修	2	H25.7/28-8/1	120	91	91	87	0	0	0	0	86	0	1	0		
	60	トピックス		1	開催中止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	61	87	精神・身体疾患併発患者診療機能支援事業	7	H25.1/23~3/13 (実習5日)	72	31	31	31	0	0	0	0	26	5	0	0		
	その他	88	精神・身体疾患併発患者診療機能支援事業 フォローアップ研修	1	H25.10.23	24	17	17	17	0	0	0	0	17	0	0	0		
	合計						8,336	7,750	7,547	7,242	111	35	202	64	5,515	1,002	210	56	27

<インターネット配信 主催:公益社団法人日本看護協会>

研修会名	日数	研修開催日	定員	参加者
その他 89 平成26年度社会保険診療報酬改定説明会	1	H26.3.20	195	185

<衛星通信研修 主催:ウェクソンインターナショナル(S-QUE研究会)>

研修会名	日数	研修開催日	定員	参加者
その他 90 看護必要度 評価者院内指導者研修	1	H25.7.7	210	204
91 看護必要度 ステップアップ研修	1	H26.2.16	210	192

研修会名	日数	研修開催日	定員	応募者	決定者	参加者	保健師		助産師		看護師		准看護師		その他
							会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	
その他 92 第32回千葉県看護研究会	1	H25.2.25 (学生含む)	500	351	351	328	1	0	8	0	303	3	6	0	7

研修会名	日数	研修開催日	決定者	受講者	辞退者
その他 93 千葉県介護職等対象の認知吸引等研修		H25.6/25~H25.3月	100	96	2

2. 第32回千葉県看護研究学会

(1) 目的

看護の現場で起きた課題や疑問などを看護研究としてまとめ、発表し、成果や課題を参加者間で共有することで得られた知見を看護実践に生かし、看護現場の質を高める。

(2) テーマ 「生活に目を向けて 笑顔がうまれつながる看護」

(3) 日 時 平成26年2月25日（火）9：30～16：00

(4) 場 所 アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張ホール>

(5) プログラム

①開会式 9：35～9：55

②特別講演 10：00～11：30

テーマ「対人ストレス対処法-毎日を笑顔でいるために」

講師 情動認知行動療法研究所所長

筑波大学 名誉教授 宗像恒次 先生

③研究発表 11：40～15：50

①口演 26題

②示説 10題 合計36題

④看護研究支援（相談支援、文献検索等）

⑤特設 必見！その人らしい生活を支える訪問看護とは

(6) 参加者総数 総数358名

(7) 表彰演題（表彰は平成26年度通常総会にて行う）

①最優秀演題

「床上安静を強いられる患者の便秘に対する看護師の認識と対応 患者の床上排泄に関連した聞き取り調査を通して」

社団有相会 最成病院 島田 里美

②優秀演題

「就職後1年目の新人看護師のリアリティショックの認知と対処についての実態調査」

船橋市立医療センター 伊藤 友美

「CAG・PCIクリニカルパス改定に向けた検討 第二報患者教育に向けたセルフチェックシートの活用」

日本医科大学千葉北総病院 田染 雄一

「A病院におけるエンゼルケアの実態調査」

東邦大学医療センター佐倉病院 大森 秀文

(8) まとめ

千葉県看護研究学会の開催は32回をむかえた。

演題数36題、参加者数358人で、計画した目標演題数（60題）・参加者数500人の2/3程度の状況であり、目標を大きく下回った。例年に比べ学会参加並びに演題募集に関する広報活動が少なかったためと思われる。

今後は学会開催の目的を果たすことができるように、演題・参加者数の増加に向け、早くから準備に取り組み、積極的な広報活動を実施していくことが参加者や演題数の増加につながると考える。

今回「生活・笑顔・連携」をキーワードとしたテーマで、笑顔でいるための対人ストレス対処法の講演の企画他、あらたに訪問看護を紹介する特設ブースを設置した。加えて研究支援の一環として昨年同様看護研究相談コーナーも開設。また参加しやすいように同一フロア内で移動できる会場設営とした。発表会場のみならず各ブースでも積極的な意見交換がされていた。

より充実した学会につなげていくために、社会情勢をふまえ、時代のニーズに応じた企画・運営が必要である。

3. 助産師出向支援モデル事業（日本看護協会委託事業）

本事業は日本看護協会が、助産師の偏在を是正し、助産師の実践能力強化に資する助産師出向支援モデルを、平成25～26年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業として実施することとなり、その事業の実施県として千葉県も15県のうちの一つとして参加した。

目的: 安全・安心な妊娠・出産・育児支援のため、助産師の実践能力強化、助産師学生の臨地実習施設の確保のための指導力強化、助産師偏在是正を図る

今年度は以下のことに取り組んだ

(1)協議会設置

千葉県における「助産師出向支援モデル事業」を効果的に推進していくため、助産師出向支援モデル事業の企画、運営、評価分析を行うことを目的に助産師出向支援モデル事業推進協議会を設けた。委員構成は医師会、産婦人科医会、助産師会、看護管理者、行政、協会の7名にて今年度2回開催（H26.1/13, 2/27）。①千葉県における助産師出向支援モデル事業の目的 ②「助産師出向支援モデル事業」企画・運営上の課題および対応策について協議した。

協議会が位置づけた千葉県における主たる助産師出向の目的は、助産師実習指導者の育成につながることをねらいに助産師の実践能力強化を図る為の研修出向とした。

(2) 事業推進のための実態把握

助産師出向支援モデル事業推進のPRと、助産師出向に関する意向の事態を把握する目的で県内の分娩を取り扱う会員施設(助産院除く)及び診療所、助産師会員のいる161施設に対し、質問紙調査を実施。

実施期間：2月7日～2月20日 回収数52施設（回収率32.3%）

結果、出向を実現するために必要な調整課題と参加意思のある施設が12施設であることがわかった。

次年度は助産師出向の実施・評価期間となるため、早急に出向を支援するコーディネーターの選定と実施施設のマッチング調整が急務となる。

Ⅱ 看護師等の労働環境等の改善、就業促進等により、看護師等の人材確保・定着に関する事業

看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業

1. 千葉県看護協会の取り組み平成25年度の活動内容とその成果

平成25年度は、3年目の5施設と2年目を迎えた4施設、新たにスタートした4施設とインデックス調査のみ参加の2施設を加え15施設の取り組みでスタートした。本県の取り組みの特徴は、開始年度からワークショップ事業と看護職の就労環境改善事業(県委託事業)を組み合わせ実施している。

○活動内容

ワークショップ事業では、①事前説明会②事前研修会(調査結果の分析方法等)③フォローアップワークショップの公開を行った。取り組み2年目施設は、ワークショップに助言者として参加、フォローアップワークショップで取り組み成果を発表、取り組み3年目施設はインデックス調査を実施し、3年間の取り組み評価を公表した。その他に、取り組み2～3年目施設・取り組み1～3年目施設の情報交換会(各1回)を開催、自施設取り組みの振り返りや他施設との意見交換により、取組み年毎の評価及び次年度以降の指針となることを期待している。WLBの普及啓発戦略として、県内各地区で出前研修会を実施した。また、施設等会員代表者会等で活動成果を発表するなど、看護職のキャリア継続と多様な勤務形態の推進を図っている。また協会機関誌「看護ちば」に毎号取り組み状況を掲載している。

○活動の成果

取り組み2年目の看護管理者は、1年目施設に対する助言者の役割の機会や、取り組み状況の中間発表では、自施設の事業の継続・改革への示唆が得られている。1年目施設も実践に裏打ちされた助言を受け、取り組みの指標とした。取り組み3年目施設はインデックス調査結果から3年間の評価発表を行った。「WLB制度の周知」「看護ケアの充実」「超過勤務時間の軽減」「連続休暇・有給休暇の取得促進」については全施設の取り組みに成果が表れてきている。「管理者が自分たちを大切にしてくれている」という職場風土の転換は、一番大きい成果と考える。

WLB推進部会	年5回開催
1年目施設への支援 (H25年度取組施設)	事前説明会や各施設の推進委員会へ参加(訪問支援4施設各4回ずつ)、社会保険労務士による研修会1施設
2年目施設への支援 (H24年度取組施設)	自施設での取り組みに向けた年1～5回の訪問及び1～2回の電話訪問。院内規定等の整備に向けて社会保険労務士の派遣
3年目施設への支援 (H23年度取組施設)	自施設での取り組みに向けた年1～2回の訪問及び電話訪問の実施。看護実践環境の改革施設に学識経験者紹介

2. 事業総括(3年間の振り返りとその評価)

- (1) 当協会WLB事業目標「離職率の低下」は、取り組み初年度には低下する傾向を示した。全体的な評価としては、育児・介護支援制度の活用や、短時間雇用制度の運用について制度が浸透し、離職率の低減に繋がっていくものと期待しているところである。
- (2) WLB事業が県内医療施設に波及し、「働きやすい職場づくり」を目指した取り組みへの成果は、3年間で傍聴施設延べ129施設、傍聴者数延べ199人の参加が得られた。その他公開研修会や広報活動を行った結果、看護学生からも取り組み施設へ問い合わせがみられるようになったことは労働環境の進化であると期待したい。
- (3) 今後の課題：看護職の過重負担を軽減するための看護管理者への支援対策も必要と考えられる。

看護職のWLB推進フォローアップワークショッププログラム

1. 目的：ワークショップ後の各施設での取組みについて、情報を共有すると共に意見交換を行い、次年度以降の各施設における取組み課題を明確にする。
2. 開催日時：平成26年1月17日（金）10時～15時30分
3. 開催会場：千葉県看護会館2階大研修室
4. 参加者：参加施設、ワーク・ライフ・バランス推進部会委員(支援者、推進者)及び事務局、傍聴者等
5. 内 容 司会：星野理事

時間	内容	担当
10:00～10:05	あいさつ	澤田専務
10:05～10:40 (講演30分・施設のPP準備5分)	講演： 「(仮)雇用の質改善に向けて — 就労環境の現状と課題 —」 千葉労働局 医療労働専門相談員 坂上和芳	
10:40～11:20 11:20～12:00 <2施設> (各施設40分 報告30分 質疑応答10分)	各施設の報告、討議、意見交換 — 報告内容 — ①病院概要、②アクションプラン、 ③推進体制づくり、④アクションプランの実施状況 ⑤平成26年度に向けての取組計画、課題 ※参加施設、支援者、推進者等の参加者で討議を行う	① 国保匝瑳市民病院 ② さんむ医療センター
12:00～13:00	昼 食	
13:00～13:40 13:40～14:20 <2施設> (各施設40分 報告30分 質疑応答10分)	各施設の報告、討議、意見交換 — 報告内容は午前中と同じ — ※参加施設、支援者、推進者等の参加者で討議を行う	③ 千葉県立佐原病院 ④ 千葉療護センター
14:20～14:30	休 憩	
14:30～15:10 4施設 各施設10分	取組み2年目施設の進捗状況について ① 国保松戸市立病院 ② 谷津保健病院 ③ 君塚病院 ④ 稲毛病院	
15:10～15:25	全体討議・総評	澤田専務 WLB推進部会
15:25～15:30	今後の取組みについて（事務連絡）	山田アドバイザー

看護職のWLB推進ワークショップ プログラム

- 1 **開催日時** 平成25年9月12日(木)・13(金) 2日間
 2 **開催会場** 千葉県看護会館2階大研修室
 3 **参加者** 参加施設、支援者、推進者、WLB推進部会等メンバー、オブザーバー

〈1日目：9:30～16:30〉

時間	内容	講師・担当者	司会等
9:30～9:40 (10分)	あいさつ	千葉県看護協会長	星野理事
	講義 テーマ —看護職が働き続けられるために—		
9:40～10:00 (20分)	1. 仮「千葉県看護協会におけるWLBの取組み」	千葉県看護協会 専務理事 澤田いつ子	
10:00～11:00 (60分)	2. 仮「組織的な取組みをめざして～職員の勤労意欲と満足感～」	千葉県循環器病センター 事務局長 氏原 強	
11:00～12:00 (60分)	3. 仮「事例発表：1年間の取組みから見えてきたこと」	君塚病院 看護部顧問 藤枝純子	
12:00～13:00	昼 食		
13:00～16:30 (210分)	個別ワーク(各施設毎で作業) ・進め方のオリエンテーション ・インデックス調査結果の分析 ・自施設の問題・課題の確認、優先度の明確化 ・目標の設定 ・アクションプランの立案 ※随時、支援者、推進者、WLB推進部会メンバー等の助言を受けながら進めていく	千葉県看護協会推進者・ 支援者	星野理事

〈2日目：9:30～16:00〉

時間	内容	講師・担当者	司会等
9:30～12:00 (150分)	個別ワーク(各施設毎で作業)	千葉県看護協会支援者他	星野理事
12:00～13:00	昼 食		
13:00～15:00 (120分)	各施設の発表、全体討議、意見交換(4施設、各施設30分) ・自施設の分析結果(問題、課題、優先度、その根拠、推進づくり)及びアクションプラン(案)を発表 参加施設、支援者、推進者、WLB推進部会メンバー等と討議を行う	千葉県看護協会推進者・ 支援者	星野理事
15:00～15:45 (45分)	総評		WLB推進部会 澤田専務
15:45～16:00 (15分)	フォローアップワークショップ(平成26年1月17日)について説明		山田アドバイザー

看護進路相談事業

1. ふれあい看護体験事業

- (1) 目 的 中・高校生が病院や介護施設において、看護師の看護実践場面の見学や体験をとおして看護を実感することにより、看護についての関心を高め、理解を深めることにより看護を志してくれる人材を確保する。
- (2) 実施期間 平成24年5月～平成25年1月
- (3) 受入施設 100施設
- (4) 実施施設 81施設
- (5) 参加人数 736名
- (6) 実施内容 ①看護についての説明
②院内見学
③ベッドメイキング
④清拭、手浴、足浴等清潔の介助
⑤移動の介助（車椅子移動）
⑥食事介助
⑦経管栄養の見学
⑧バイタルサイン測定
⑨検査の見学
⑩看護についての相談等
- (7) 参加者の感想 ・看護体験に参加して、自分の夢を明確にすることができた。
・「ありがとう」という言葉が、こんなにうれしかったことは初めてだった。
・コミュニケーションの大切さを学んだ。
・看護師の仕事の大変さを実感した。
- (8) 受入施設の感想 ・看護体験が看護師になることの動機づけとなり、看護職の確保に繋がっていくと思う。
・若者に看護の心を伝えていくことの責任の重要さを感じた。
・中・高生を受け入れることで、病院全体が明るくなる。

2. 進路相談事業

(1) ナースセンターにおける進路相談

項目	一般	高校	中学	教員	保護者	計
電 話 相 談	101	88	0	36	62	287
面 接	6	0	0	0	0	6
メ ー ル	1	8	0	0	0	9
F A X ・ 郵 便	0	0	0	0	0	0
合 計	108	96	0	36	62	302

(2) 出前授業（出張相談含む）

NO	学校名	参加者数	NO	学校名	参加者数
1	鎌ヶ谷西高校	480	7	成田市立成田中学校	172
2	千葉北高校	327	8	千葉市立磯辺中学校	368
3	国分高校	30	9	八街市立八街北中学校	136
4	栄町立栄中学校	118	10	我孫子市立白山中学校	239
5	銚子第六中学校	86	11	習志野市立第五中学校	260
6	西武台千葉中学校	77	合計		2293

ナースセンター事業

(1) 看護職の職業紹介事業

ナースセンター登録状況

①新規求職登録

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健師	17	24	12	19	17	20	14	8	10	17	14	19	191
助産師	8	4	4	1	1	5	4	5	3	3	3	4	45
看護師	88	88	75	66	69	95	65	69	63	79	66	76	899
准看護師	11	6	7	10	4	4	2	2	5	7	9	3	70
合計	124	122	98	96	91	124	85	84	89	106	92	102	1205

*求職登録有効期間 6か月

②新規求人登録及び就業者数

区分		新規求人数					合計	就業者数					合計
		保健師	助産師	看護師	准看護師	小計		保健師	助産師	看護師	准看護師	小計	
病院	常勤	0	8	737	21	766	846	2	2	25	2	31	54
	非常勤	0	0	77	0	77		0	0	22	0	22	
	臨時	0	0	3	0	3		0	0	1	0	1	
診療所	常勤	2	4	122	13	141	265	0	0	13	2	15	28
	非常勤	0	2	84	38	124		2	0	10	1	13	
	臨時	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
訪問看護 ステーション	常勤	0	0	83	0	83	115	0	0	10	0	10	17
	非常勤	0	0	32	0	32		1	0	6	0	7	
	臨時	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
介護保健 施設等	常勤	3	0	132	31	166	302	0	0	0	0	7	27
	非常勤	1	0	125	10	136		0	0	0	0	18	
	臨時	0	0	0	0	0		0	0	0	0	2	
社会福祉 施設	常勤	0	0	19	0	19	38	0	0	3	0	3	4
	非常勤	0	0	19	0	19		0	0	1	0	1	
	臨時	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
県・市町村	常勤	3	0	0	0	3	61	2	0	0	0	2	18
	非常勤	31	0	27	0	58		8	1	5	0	14	
	臨時	0	0	0	0	0		0	0	2	0	2	
事業所等	常勤	2	0	30	0	32	71	8	0	4	0	12	43
	非常勤	6	0	31	0	37		13	1	7	0	21	
	臨時	0	0	2	0	2		0	0	10	0	10	
学校等	常勤	1	0	9	0	10	46	2	0	5	0	7	26
	非常勤	0	0	28	0	28		0	0	6	0	6	
	臨時	0	0	8	0	8		1	0	12	0	13	
その他	常勤	3	0	66	0	69	179	2	1	4	0	7	219
	非常勤	3	0	35	1	39		2	0	22	0	24	
	臨時	3	0	68	0	71		6	1	181	0	188	
小計	常勤	14	12	1,198	65	1,289	1,923	17	3	70	4	94	436
	非常勤	41	2	458	49	550		26	2	97	1	126	
	臨時	3	0	81	0	84		7	1	208	0	216	
合計		58	14	1,737	114	1,923	50	6	375	5	436		

*求人登録有効期間 6か月

(2) 看護力再開発講習会

①看護職再就業講習会

目 的： 未就業の看護職の職場復帰を支援するため、最近の医療や看護の知識技術を習得する機会を確保し、就業の動機づけにする。

参加状況	参加人数	7名
	就業者	3名
	就業率	42.9%

参加者の背景

年 齢	職種別数				人数（名）	経験年数	人数（名）	ブランク	人数（名）
	保	助	看	准					
30～35歳			2		2	5年未満	3	5年未満	2
36～40歳				1	1	10年未満	2	10年未満	2
41～45歳			4		4	10年以上	2	10年以上	2
合計人数			6	1	7		7		7

②看護基礎技術講習会

目 的： 潜在看護職及び求職中の看護職で、看護基礎技術に不安があり、再学習及び再習熟を希望している方を対象に、ナースセンターにおいて看護基礎技術を体験、習熟する場を確保し、支援することにより再就業への動機づけとする。

参加状況	参加人数	9名
	就業者	3名
	就業率	33.3%

参加者の背景

年 齢	職種別数				人数（名）	経験年数	人数（名）	ブランク	人数（名）
	保	助	看	准					
30～35歳			1		1	5年未満	4	5年未満	5
36～40歳			6		6	10年未満	5	10年未満	2
41～45歳			2		2	10年以上		10年以上	2
合計人数			9		9		9		9

(3) 看護師等就業協力員活動状況

地区	地区の現状・情報
千葉	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師確保に困窮している施設とそれほど強く感じていない施設があり、区内で格差がみられている。全体的に看護師不足を感じているのは中小の施設に多い傾向である。 ・看護師業務負担軽減を考慮し、看護補助者増と夜勤導入を検討している施設も見受けられ、診療報酬をにらみながら検討を進めている施設がある。 ・千葉地区で行われるイベントにまちの保健室的な参加を要望してくる事業者もあり、看護師の大切さをアピールするには良い機会かもしれない ・相変わらず看護師・看護補助者を斡旋する業者からの紹介は多い。しかしながら長続きする看護師は少ない方であり、施設として悩ましいとの意見があった。 ・再就業で施設の門を叩く看護師は子育てが一段落し地域に居住しているものが多い。院内保育所を持っていることは採用確保に強いと思われる。一方この年度末、診療報酬の改定の対応に戸惑いながら奔走しているとの話題が多かった。
市原	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期は、管内施設の改修や機能分化を目的とした増床等様々な変革があった。しかしながら、人材確保については苦戦している現状である。 ・活動内容として <ul style="list-style-type: none"> ・合同就職説明会の参加 ・中学校の社会体験学習の受け入れや講演会への参加 ・高等学校養護教諭へのPR 等 <p>上記活動に加え、定着に向け自施設の離職分析を明確にし、問題解決に向けて継続的に取り組んでいきたい。また、区内内の合意のもと合同就職説明会の開催を検討している。</p>
船橋	<ul style="list-style-type: none"> ・船橋地区の就業状況は何年も変わっていないと思われる。紹介会社を通じた見学や採用が多いのも変わっていない。「施設の情報を入手できる」という理由で登録している現状があり、各施設への直接の応募については減少している。 ・ブランクがある看護師については、柔軟に対応している施設が増加している。だが看護師が不足している施設がほとんどである。これらの現状から、私自身も看護師不足の中で看護師等就業協力員として活動していない、できない現実もある、役員それぞれも同じである。 ・産休・育休取得、その後の勤務復帰などは、以前とは勤務の仕方が少しずつ変化している現状もある。
市川	<ul style="list-style-type: none"> ・就業協力員としての活動はしていない。 ・看護師確保の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師確保は課題となっており、合同就職説明会への参加や、学校訪問の実施、派遣業者を介しての確保努力は変わらずに行っている。 ・年度途中の退職は、その補充が大変難しく、欠員で業務が行われている。人員補充の計画ができる産休や育休についても人件費の面から病院経営と密接であり、事前補充が難しく、欠員になることがある。 ・産後や育休復帰者については、年度途中では保育所への入所が難しく、復帰が遅れている現状である。勤務時間の調整や保育料の全額病院負担しているところもある。 ・離職防止 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスを考慮した勤務体制をとる。夜勤の免除、時間外勤務制限、短時間勤務を実施している。 <p>昨年同様看護師確保定着するのは容易ではなく、常に募集活動を行っており、派遣会社にお願いせざるを得ない状況である。</p>
松戸	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸地区全体で看護師不足は変わらず、潜在看護師の登録制度化が早期に実現することを希望している。潜在看護師の復職支援を開催しているが、なかなか参加がない。 ・既卒看護師は紹介会社を経由して入職してくるが、自分の希望に添わないと安易に退職する傾向にある。

地区	地区の現状・情報
東葛	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、地区部会主催の合同就職説明会をめざした。広報活動として、柏市教育委員会への働きかけを行ったが、公的機関を通しての配布は難しく、会場確保も手続き上困難であった。役員会を経て、地域新聞への技術研修を掲載（2/7号）、東葛地区全域に配布した。看護師確保では、復職者へのアピールとして、近場での説明会の開催やまちの保健室を使つての掲示を行う等の提案があった。また定着の視点からは、学校側から、数か月で離職したり、半年程で相談に来る卒業生もいるので上手く職場に適応できるようアドバイスしたい、活躍の場は多様であり、その学生に合った場に行かせたい等の意見があった。併せて在宅・母性の実習施設の確保に苦慮している現状も報告された。他方面への働きかけを行い、H26.6/5(木) アミュゼ柏にて合同就職説明会を開催予定であり、準備を進めている。
印旛	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の連絡会の時に人材確保と再就業支援について意見交換を行った。 ・看護の分野、介護の分野ともに現場では、人材確保が難しい状況。託児所の設置など設備を整え子育て支援できないと就業に繋がらない。法的整備がされてきているが、中々活用されていないところもある。 ・看護学校を隣接していても人材確保が難しい。成田市に医療系の大学が建設予定であり、地域の就業に繋がる事を期待。 ・看護師の就業希望者の多くが日勤希望。 ・社会人経験や一般大学卒業後に看護師の資格を取って入職してくる新人への指導教育が難しい。年齢的に夜勤をするのに大変な職場環境（電子カルテ）などが多くなってきており、管理者はそのような環境の調節に配慮が必要となつてきている。他の施設で続かなくなった既卒者を受け入れたがなかなか指導が難しい。
利根	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職確保には各施設とも、苦勞している。奨学金を借りていても、他施設に就職し、確保にはつながらないこともある。 ・募集しても、応募がないことも多く、待っているだけではダメなようである。 ・ある施設では、病院独自で、就業相談会を開催し、就職に結びついた。 ・地区内の大学が看護学部を新設したので、将来の看護職への確保に繋げることができれば、と思う。
山武	<ul style="list-style-type: none"> ・山武地域において、合同就職説明会を初めて行った。15名の応募で看護技術演習と施設説明を行い、参加病院及び施設は9施設であった。はじめは、参加者がいるのかどうか不安であったが、思った以上の人数で、潜在看護師が多くいることが実感できた。また、参加者の中で3名の就職が、ほぼ決まりそうであるとの報告を受けている。今後も毎年この活動を行うことで、1人でも多くの潜在看護師の就職につながればと連絡会でも前向きな意見が出ている。
長夷	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師確保は難しく、ハローワーク、ちらし広告、人材派遣などの業者を利用して募集に努めているが、費用の多くかかる派遣業者を利用できない病院も多く困っている。 ・地域に4大の看護学部も出来たが、卒業生が出るのは2年先である。一番いいのは、就職した看護師が辞めない環境を作ることであるが、人手不足により夜勤が増えたり、残業が増えたり休みも返上になるといふことで悪循環になってしまっている。 ・地域の連絡会や「まちの保健室」などのイベントで進路相談を行い、少しでも若い人たちが興味を持てるような機会を増やし、地区内で情報交換をして連絡を取り合いながらの活動をしている。
君津	<ul style="list-style-type: none"> ・院内にポスターによる広報活動では申し込みは無く役には立たなかったと思う。就職希望で連絡があった場合に他施設も含めてご案内をすることもあった。 ・中学生に向けては「看護のお仕事とは」説明会の依頼がありお話に行くことがあった。体験学習をするうえで看護師体験を希望される人が増えたようである。
安房	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師就業協力員として案内を院内に掲示してあるものの、相談は1件もなかった。 ・当院でも下半期、潜在看護師の復職支援プログラムを計画し広報したが、応募がなく中止となった。（上半期は4人） ・今年度は当院での活動としていたが、次年度は安房地区部会としての合同説明会・実技講習も計画して行く予定である。

(4) 看護職の定着確保にかかる調査

①看護職の定着確保動向調査

調査目的：看護職の定着確保対策の一環として、毎年、新人看護職の現状や、離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件、さらに、病院における看護職の需給動向や教育研修体制、労働条件、定着確保対策を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料とする。

調査対象及び調査方法、調査期間

調査対象	調査方法	調査期間
千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成25年9月5日～平成25年9月20日
千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講生	フレッシュセミナーにて調査票を配布・回収	平成25年9月24, 25, 27, 30日、10月1, 2, 3日
求人施設（県内病院の看護管理者）	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成25年9月5日～平成25年9月20日

ア. 千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職

対象数：179名 回収数：80名 （回収率：44.7%）

(ア) 求職者の現住所

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛
27	4	12	11	2	9	9
33.8%	5.0%	15.0%	13.8%	2.5%	11.3%	11.3%
利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
0	1	1	1	0	0	3
0.0%	1.3%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	3.8%

(イ) 年齢

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
8	31	30	5	4	2
10.0%	38.8%	37.5%	6.3%	5.0%	2.5%

(ウ) 離職時の職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
6	4	61	7	2
7.5%	5.0%	76.3%	8.8%	2.5%

(エ) 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
4	7	13	14	17	10	11	4
5.0%	8.8%	16.3%	17.5%	21.3%	12.5%	13.8%	5.0%

(オ) ブランク期間

0～3年	4～5年	6～10年	11年以上	無回答
53	4	11	5	6
66.3%	5.0%	13.8%	6.3%	7.5%

(カ) 離職時の雇用形態

正規職員	非常勤職員	派遣	無回答
36	39	3	2
45.0%	48.8%	3.8%	2.5%

(キ) 離職理由

定年退職	契約期間満了	結婚	出産育児 子供のため	配偶者の 転勤	老親の世話 家族の介護	家事と両立 しない	健康上の 理由	自分の適正 能力への 不安	Uターンの ため
2	8	6	25	11	3	3	3	5	0
2.5%	10.0%	7.5%	31.3%	13.8%	3.8%	3.8%	3.8%	6.3%	0.0%

通勤困難	転居	他分野への 興味	進学	看護職に 向いて いない	人間関係	看護内容 への不満	継続教育が ない	賃金への 不満	労働時間へ の不満
2	12	4	1	0	15	11	1	8	2
2.5%	15.0%	5.0%	1.3%	0.0%	18.8%	13.8%	1.3%	10.0%	2.5%

夜勤回数が多い	残業量が多い	福利厚生が 十分でない	休みが 取れない	その他	無回答
0	2	1	0	6	1
0.0%	2.5%	1.3%	0.0%	7.5%	1.3%

その他 <input type="checkbox"/> 正職員になれなかった <input type="checkbox"/> 少し休みたかった <input type="checkbox"/> 子どもが保育園に入れなかった <input type="checkbox"/> クリニックの都合

(ク) 就業条件

保育所がある (夜間保育含む)	育児制度が 利用できる	介護休暇が とれる	休みがとり やすい	超過勤務が 少ない	夜勤回数が 少ない	夜勤がない	柔軟な勤務 形態の導入	自分の希望 する給与	通勤に便利 な職場
9	4	0	42	20	2	21	32	11	32
11.3%	5.0%	0.0%	52.5%	25.0%	2.5%	26.3%	40.0%	13.8%	40.0%

看護内容が 充実してい る	自分の能力 が活かせる	継続教育が 充実してい る	希望する看 護領域であ る	資格取得支 援がある	無回答
9	8	9	9	0	0
11.3%	10.0%	11.3%	11.3%	0.0%	0.0%

イ. 千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講中の看護職

対象数 : 1,163名 回収数 : 1,011名 (回答率 : 86.9%)

(ア)性別

女性	男性	無回答
892	110	9
88.2%	10.9%	0.9%

(イ)卒業した看護師等学校養成所

大学院	大学	看護学校	保健師学校	助産師学校	准看護師学校	その他	無回答
5	297	618	1	8	32	31	19
0.5%	29.4%	61.1%	0.1%	0.8%	3.2%	3.1%	1.9%

その他

<input type="radio"/> 5年一貫高校	<input type="radio"/> 看護短期大学	<input type="radio"/> 国立看護学校
------------------------------	------------------------------	------------------------------

(ウ)職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
35	19	877	38	42
3.5%	1.9%	86.7%	3.8%	4.2%

(エ)勤務形態

常勤	非常勤	無回答
989	6	16
97.8%	0.6%	1.6%

(オ)現在の就業施設の所在地区

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷
186	85	149	110	115	35	133	81	6	8
18.4%	8.4%	14.7%	10.9%	11.4%	3.5%	13.2%	8.0%	0.6%	0.8%

君津	安房	県外	無回答
35	1	1	66
3.5%	0.1%	0.1%	6.5%

(カ)施設規模・施設等

病院							無床診療所	有床診療所	市町村
20~99床	100~199床	200~299床	300~399床	400~499床	500床以上	床数不明			
21	60	117	161	241	250	99	1	1	1
2.1%	5.9%	11.6%	15.9%	23.8%	24.7%	9.8%	0.1%	0.1%	0.1%

健康福祉センター	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉施設	その他	無回答
1	0	3	2	0	53
0.1%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	5.2%

(キ)辞めたいと思ったことの有無

ある	ない	無回答
678	316	17
67.1%	31.3%	1.7%

(ク)辞めたいと考えた理由

配属部署の専門的な知識や技術が不足している	356	35.2%
自分は看護職に向いていないのではないかと思う	345	34.1%
医療事故を起こさないか心配である	307	30.4%
勤務時間内の仕事が終わらない	303	30.0%
基本的な技術が身につけていない	301	29.8%
自分の看護が患者のニーズにこたえているか自信がない	285	28.2%
仕事の優先順位が付けられない	222	22.0%
職場の先輩に質問しづらい	212	21.0%
自分のペースで仕事ができない	210	20.8%
ヒヤリハットレポートを書いた	168	16.6%
就職前に考えていた看護の仕事とギャップが大きい	158	15.6%
職場の雰囲気になじめない	151	14.9%
与えられる課題等があつて休日に休めない	132	13.1%
受け持ち患者が多すぎる	122	12.1%
看護職を辞めたいと思っている	118	11.7%
看護業務以外の業務が多すぎると感じる	106	10.5%
十分な教育研修が受けられていないと感じる	87	8.6%
プリセプターと合わない	80	7.9%
医師との意思疎通がうまくいかない	76	7.5%
プリセプターからの1人立ちが早いと感じる	76	7.5%
患者及び家族とのコミュニケーションがうまくとれない	69	6.8%
夜勤に入るのが早いと感じる	62	6.1%
直属の上司からサポートが得られない	52	5.1%
交代制の勤務に慣れない	49	4.8%
電話の対応がうまくできない	43	4.3%
院内のITシステムがうまくいかない	22	2.2%
夜勤のリーダー業務が負担である	18	1.8%
無回答	20	2.0%

(ケ)辞める事を思いとどまった理由

生活していくための手段	292	28.9%
自分なりに整理がついたから	183	18.1%
収入が安定しているから	165	16.3%
同僚に相談し、再度やる気になったから	157	15.5%
職場環境が仕事をしやすい環境だったから	76	7.5%
目的・目標を持てたから	54	5.3%
上司に認めてもらえたから	50	4.9%
師長等中間管理職に相談し、再度やる気になったから	42	4.2%
仕事にいきがいを感じたから	40	4.0%
看護管理者が尊敬できたから	21	2.1%
給料が仕事に見合っていたから	12	1.2%
研修の機会が用意されたから	8	0.8%
結婚・出産・育児に家族の協力が得られたから	5	0.5%
その他	65	6.4%

その他

<input type="radio"/> 奨学金返済のため	<input type="radio"/> 辞めづらい	<input type="radio"/> プリセプターのサポート
<input type="radio"/> 患者からの感謝	<input type="radio"/> 先輩のサポート	<input type="radio"/> 決断できない
<input type="radio"/> 業務改善	<input type="radio"/> 同期の励まし	<input type="radio"/> 時期がまだ早い

ウ. 求人施設(県内病院の看護管理者)

対象施設数 : 278施設 回収数 : 168施設 (回収率 : 60.4%)

(ア) 施設の所在地

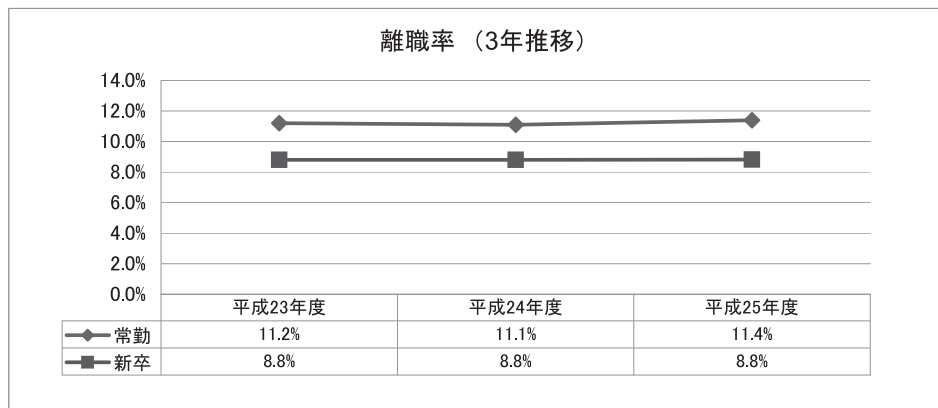
千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷	君津	安房
38	8	25	10	9	25	11	13	4	10	5	10
22.6%	4.8%	14.9%	6.0%	5.4%	14.9%	6.5%	7.7%	2.4%	6.0%	3.0%	6.0%

(イ) 稼働病床数

	一般病棟	療養病棟	結核病棟	精神病棟	その他
許可稼働数	24,300	4,747	129	6,845	1,620
稼働病床数	20,958	4,481	113	5,565	1,456

(ウ) 常勤看護職員の離職率 11.4%

(エ) 新卒看護職員の離職率 8.8%



(オ) 1か月当たりの超過勤務時間が、「60時間以上」の常勤看護職員数(非管理職)はいなかった。

(カ) 看護職員の超過勤労働を減らす具体的な対応策(複数回答)

対策している (n= 144)							対策していない	無回答
看護職員の増員	看護職員以外の職員の増員	看護職員の業務分担の見直し	看護職員と他職種との業務調整	業務量に応じた柔軟な人員配置	その他			
144	66	72	112	88	85	14	22	2
85.7%	45.8%	50.0%	77.8%	61.1%	59.0%	9.7%	13.1%	1.2%

その他

- | | | |
|-------------------------------------|--|--|
| <input type="checkbox"/> 時差出勤・終業 | <input type="checkbox"/> 遅番の導入 | <input type="checkbox"/> 遅番早番勤務の流動化 |
| <input type="checkbox"/> 遅出勤務の配置 | <input type="checkbox"/> 承認早退制度 | <input type="checkbox"/> 委員会会議30分以内徹底 |
| <input type="checkbox"/> 記録の見直し | <input type="checkbox"/> 申告制残業 | <input type="checkbox"/> 外来看護アシスタント、PSRの導入 |
| <input type="checkbox"/> 勤務時間の見直し | <input type="checkbox"/> 申し送り時間短縮 | |
| <input type="checkbox"/> ノー残業デーの設定 | <input type="checkbox"/> フレックスタイム出勤による業務調整 | |
| <input type="checkbox"/> リーフ体制の整備強化 | <input type="checkbox"/> 救急病棟の配置、夜間患者は全て入院 | |

(キ) 多様な勤務形態導入状況(複数回答)

導入している (n=115)											導入していない	無回答
フレックス タイム	ジョブ・ シェアリン グ	時差出勤 終業	在宅勤務	学期間 労働	期間限定 労働時間 短縮	年間労働 時間 契約制	圧縮労働 時間制	短時間 正職員 制度	その他			
115	21	2	72	0	6	21	5	3	45	10	53	0
68.5%	18.3%	1.7%	62.6%	0.0%	5.2%	18.3%	4.3%	2.6%	39.1%	8.7%	31.5%	0.0%

その他

<input type="checkbox"/> 育児・介護短時間制度 <input type="checkbox"/> 短時間曜日限定パート職員 <input type="checkbox"/> 再任用制度、嘱託職員採用 <input type="checkbox"/> 申し送り時間帯の残務対応スタッフ配置	<input type="checkbox"/> 日勤常勤、夜勤専従 <input type="checkbox"/> 期間限定パート、後常勤 <input type="checkbox"/> 常勤日勤(ゾーン正職員)3交替、2交替選択制
--	---

(ク) 育児・介護休業法の改正に伴う取り組み

取り組んでいる (n=146)							取り組んでいない	無回答
看護職員 の増員	看護職員 以外の職 員の増員	看護職員 の業務分 担の見直 し	看護職員 と他職種 との業務 調整	業務量に 応じた柔 軟な人員 配置	その他			
146	75	45	81	47	97	12	20	2
86.9%	51.4%	30.8%	55.5%	32.2%	66.4%	8.2%	11.9%	1.2%

その他

<input type="checkbox"/> 託児室、病児保育 <input type="checkbox"/> 24時間・夜間保育、 <input type="checkbox"/> 院内保育室の充実、デイサービスの利用 <input type="checkbox"/> 実働時間計算による人員配置 <input type="checkbox"/> 子育て支援プロジェクトにて、育児休暇中の職員への情報提供や子育てミーティング等開催	<input type="checkbox"/> 託児所利用料の補助 <input type="checkbox"/> 育児・介護休暇	<input type="checkbox"/> 夜勤免除、夜間保育 <input type="checkbox"/> 部署間での応援体制
---	--	--

(ケ) 看護職員の卒後の教育研修体制

a. 教育部門の教育研修責任者の配置状況

配置あり	(内訳 n=126)				配置なし
	専従	専任	両方	無回答	
126	28	97	0	1	42
75.0%	16.7%	57.7%	0.0%	0.6%	25.0%

b. 病棟・外来の教育研修担当者(プリセプターを除く)配置状況

配置あり	(内訳 n=112)			配置なし	無回答
	専従	専任	両方		
112	4	107	1	52	4
66.7%	2.4%	63.7%	0.6%	31.0%	2.4%

c. 新卒看護職員の研修を企画・評価する組織(委員会等)の設置状況

あり	なし	無回答
117	51	0
69.6%	30.4%	0.0%

d.新卒看護職員の教育研修体制について

	業務に支障なく研修を受講できる人員配置	看護部門に教育研修責任者を配置	病棟、外来等の部署単位に教育研修担当者を配置	教育研修を企画・評価する組織を設置	病院間連携による教育研修の実施	教育研修担当者の資質向上のための支援	教育研修担当者の業務量への配慮	その他	特になし	無回答
すでに取り組んでいる	68 40.5%	104 61.9%	83 49.4%	103 61.3%	45 26.8%	79 47.0%	50 29.8%	11 6.5%	15 8.9%	2 1.2%
取り組みの拡充・新たに開始予定	9 5.4%	9 5.4%	7 4.2%	11 6.5%	9 5.4%	19 11.3%	9 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

その他

<input type="checkbox"/> e-ラーニング導入	<input type="checkbox"/> 実地指導者研修等受講
<input type="checkbox"/> 看護協会の研修参加	<input type="checkbox"/> 外部よりアドバイザーを招聘
<input type="checkbox"/> 勤務時間内での研修の実施	<input type="checkbox"/> 独自のナーシングスキル、プロシージャーズ→研修医用
<input type="checkbox"/> 新卒者の採用なし	

e.全看護職員の卒後研修体制のシステム化状況

システム化されている	システム化されていない	検討中	無回答
75	49	41	3
44.6%	29.2%	24.4%	1.8%

f.クリニカルラダー(キャリア開発ラダー) 導入状況

導入している	導入していない	検討中	無回答
60	70	37	1
35.7%	41.7%	22.0%	0.6%

(コ) 離職希望者に対する相談窓口の設置等離職防止に向けての体制整備について

できている	(複数回答)				できていない	無回答
	院内に相談窓口設置	就業協力員の紹介	千葉県ナースセンターの案内	無回答		
82	66	2	18	7	81	5
48.8%	39.3%	1.2%	10.7%	4.2%	48.2%	3.0%

(サ) メンタルヘルスに対する相談体制

a.導入状況

導入している	導入していない	検討中	無回答
110	40	15	3
65.5%	23.8%	8.9%	1.8%

b.相談対応者(複数回答)

専門家	看護部局師長	医師	その他	無回答
44	60	19	19	1
26.2%	35.7%	11.3%	11.3%	0.6%

その他の対応者

<input type="checkbox"/> 健康管理室	<input type="checkbox"/> PSW	<input type="checkbox"/> コンサルタント
<input type="checkbox"/> 産業医	<input type="checkbox"/> 総務課	<input type="checkbox"/> 事務職(事務長・総務課・人事部)

②看護職の再就業者実態調査

調査目的：ナースセンター事業において再就業した者の実態を把握し、今後の再就業促進に向けた支援方法のあり方を検討する。

調査対象及び調査方法、調査期間

調査対象	調査方法	調査期間
平成24年度千葉県ナースセンター登録の再就業者 (臨時雇用での就業者を除く)	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成25年9月6日～平成25年9月25日

対象者数：148名 回収数：83名 (回答率：56.1%)

ア. 回答者居住地区

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛
33	4	12	8	4	4	7
39.8%	4.8%	14.5%	9.6%	4.8%	4.8%	8.4%

利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
0	0	2	4	0	0	5
0.0%	0.0%	2.4%	4.8%	0.0%	0.0%	6.0%

イ. 性別

女性	男性
83	0
100.0%	0.0%

ウ. 就職時の就業状況

就業中	未就業	無回答
31	51	1
37.3%	61.4%	1.2%

エ. 年齢

	(n=83)	(n=83)		
		未就業 (n=51)	転職 (n=31)	無回答 (n=1)
20代	5	3	2	0
	6.0%	5.9%	6.5%	0.0%
30代	26	19	7	0
	31.3%	37.3%	22.6%	0.0%
40代	38	22	15	1
	45.8%	43.1%	48.4%	100.0%
50代	10	4	6	0
	12.0%	7.8%	19.4%	0.0%
60代	4	3	1	0
	4.8%	5.9%	3.2%	0.0%

オ. 資格

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
18	4	59	0	2
21.7%	4.8%	71.1%	0.0%	2.4%

カ. 未就業者のブランク期間

6か月未満	～1年	～2年	～3年	～4年	～5年	～10年	～15年	無回答
18	7	10	2	3	1	6	2	2
35.3%	13.7%	19.6%	3.9%	5.9%	2.0%	11.8%	3.9%	3.9%

キ. 現在勤務している施設で働き続けられている理由(複数回答)

	(n=42)			
		未就業 (n=28)	転職 (n=14)	無回答 (n=0)
再就業支援のプログラムがあった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
プリセプターがついてくれる	4 9.5%	4 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
看護ケアが充実している	1 2.4%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%
キャリアアップの機会がある	1 2.4%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%
医療安全対策が充実している	1 2.4%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%
上司との関係が良い	13 31.0%	8 28.6%	5 35.7%	0 0.0%
同僚との関係が良い	18 42.9%	11 39.3%	7 50.0%	0 0.0%
勤務時間が自分の生活スタイルに合っている	28 66.7%	20 71.4%	8 57.1%	0 0.0%
短時間勤務ができる	8 19.0%	7 25.0%	1 7.1%	0 0.0%
夜勤を軽減・免除する体制がある、 又は夜勤がない	10 23.8%	6 21.4%	4 28.6%	0 0.0%
休暇が取りやすい	9 21.4%	7 25.0%	2 14.3%	0 0.0%
給与が希望にあっている	7 16.7%	4 14.3%	3 21.4%	0 0.0%
通勤に便利	22 52.4%	14 50.0%	8 57.1%	0 0.0%
福利厚生が充実している	5 11.9%	3 10.7%	2 14.3%	0 0.0%
子育て支援策が充実している	1 2.4%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%
家族の支援がある	6 14.3%	5 17.9%	1 7.1%	0 0.0%
その他	4 9.5%	3 10.7%	1 7.1%	0 0.0%

その他: 【未就業】 ・託児所があるため

ク. 就職活動で利用した職業紹介所等について(複数回答)

	(n=83)	未就業 (n=51)	転職 (n=31)	無回答 (n=1)
千葉県ナースセンター	70	45	24	1
	84.3%	88.2%	77.4%	100.0%
公共職業安定所、ジョブカフェ等	38	20	17	1
	45.8%	39.2%	54.8%	100.0%
民間の就職あっせん業者	24	14	10	0
	28.9%	27.5%	32.3%	0.0%
派遣業者	14	6	8	0
	16.9%	11.8%	25.8%	0.0%
その他	10	6	4	0
	12.0%	11.8%	12.9%	0.0%

その他：【未就業】 新聞折り込み広告、インターネット求人、無料求人情報誌、市報
東京都ナースプラザ、神奈川県ナースセンター、知人からの情報

【転職】 新聞折り込み広告、インターネット求人、無料求人情報誌、東京都ナースプラザ

ケ. 再就業のきっかけ(複数回答)

	(n=83)	未就業 (n=51)	転職 (n=31)	無回答 (n=1)
今までに得た職業経験や技術・資格を活かす	43	29	13	1
	51.8%	56.9%	41.9%	100.0%
専門的な経験をより高めたい	22	13	9	0
	26.5%	25.5%	29.0%	0.0%
社会に出たい	29	22	6	1
	34.9%	43.1%	19.4%	100.0%
友人・知人にすすめられた、誘われた	3	2	1	0
	3.6%	3.9%	3.2%	0.0%
生活費のため	37	23	14	0
	44.6%	45.1%	45.2%	0.0%
子育てが一段落し、自由な時間ができた	16	13	3	0
	19.3%	25.5%	9.7%	0.0%
将来や老後への備えた貯蓄	14	11	3	0
	16.9%	21.6%	9.7%	0.0%
自分で自由に使える収入を得る	18	10	8	0
	21.7%	19.6%	25.8%	0.0%
教育費や住宅費(住宅ローンを含む)のため	16	9	7	0
	19.3%	17.6%	22.6%	0.0%
その他	6	2	3	1
	7.2%	3.9%	9.7%	100.0%

その他：【未就業】 ・転居し、知り合いもいなかったため。

・子供の病気が落ち着いたから。

【転職】 ・人間らしい看護、医療を目指したい。

・就業していたところに不満、不安があったから。

・続けたいと思える職場ではなかった。

コ. 就職先決定の決め手(複数回答)

	(n=83)	未就業	転職	無回答
		(n=51)	(n=31)	(n=1)
看護領域・看護内容・業務内容	36	23	12	1
	43.4%	45.1%	38.7%	100.0%
勤務時間	52	35	17	0
	62.7%	68.6%	54.8%	0.0%
再就業の支援プログラム	6	4	1	1
	7.2%	7.8%	3.2%	100.0%
立地(通勤に便利な場所等)	45	28	17	0
	54.2%	54.9%	54.8%	0.0%
子育て支援	2	2	0	0
	2.4%	3.9%	0.0%	0.0%
保育施設	3	3	0	0
	3.6%	5.9%	0.0%	0.0%
キャリアアップ支援	3	0	3	0
	3.6%	0.0%	9.7%	0.0%
給与	15	7	8	0
	18.1%	13.7%	25.8%	0.0%
休日・休暇制度	17	7	10	0
	20.5%	13.7%	32.3%	0.0%
宿舍・寮	2	1	1	0
	2.4%	2.0%	3.2%	0.0%
家族の支援・同意	8	6	1	1
	9.6%	11.8%	3.2%	100.0%
その他	10	6	4	0
	12.0%	11.8%	12.9%	0.0%

その他：【未就業】 雰囲気よかった、タイミング、指導してくれる先輩がいた、新病院でスタートが一緒

【転職】 更新時のタイミングが合ったから、保健師としての求人、希望していた職場だった

医療・看護における安全対策

医療安全推進週間の推進

1. 第9回 医療安全大会の開催

(1) 目的： 県民への安全・安心な医療・看護の提供に寄与することを目的に、医療安全推進週間に関する行事として医療安全大会を開催し、医療従事者の意識の向上と組織的取り組みの促進から医療安全の普及啓発を図る。

(2) テーマ： 「多職種連携で前進する医療安全」

(3) 日時： 平成25年11月4日(月) 11:00～16:00

(4) 会場： 幕張メッセ 国際会議室・中会議室201

(5) 参加人数： 450名(看護職304名、他職種73名、関係者73名)

(6) 内容：

①標語の表彰式

優秀賞 「他職種から多職種へ、皆で取り組む安全対策」

千葉県こども病院

河野 司・五十嵐 真澄

佳作 「多職種が心をつないで事故防止」

さんむ医療センター

北田 美弥子

「多職種の気持ちつなげて事故防止」

みつわ台総合病院

西 3 病棟一同

②シンポジウム 「医療安全管理の現状と多職種で取り組む医療安全の課題と展望」

医療安全管理に関する調査報告

千葉県看護協会 医療安全委員

高橋 静子

各職種からの提言及び意見交換

シンポジスト：日本病院会千葉県支部

梶原 優

千葉県病院薬剤師会

石村 淳

千葉県臨床工学技士会

三浦 國男

千葉県循環器病センター事務局

氏原 強

千葉県健康福祉部医療整備課

山崎 晋一郎

千葉県看護協会 医療安全委員

箭内 博子

③特別講演 「多職種連携で前進する医療安全～今 何をすべきか？守りの美学～」

講師：順天堂大学医学部総合診療科 病院管理学研究室 教授 小林 弘幸

④医療安全対策関連企業の展示及び説明 「インシデント 報告システム」

(7) まとめ：

特別講演では、臨床で発生した裁判の判例の多くが紹介され、職種として"何をすべきか"施設として"何をすべきか"について明日からの実践に役立つ提言があり、参加者からは、多くの示唆が得られたと大変好評な意見をいただいた。

また、シンポジウムでは、各職種（医師・薬剤師・臨床工学技士・看護師・事務職・行政）から、県内病院の医療安全管理体制の現状について調査した結果を基に、多方面にわたる提言をいただいた。

安全・安心な医療・看護を提供していくためには、多職種によるチーム医療が重要であるが、看護職以外の大会参加者が少ない状況にある。今後は、施設あて参加依頼方法の見直しや他職種団体への参加の働きかけを行うことにより、多職種参加者が増加するよう努めていきたい。

2. 医療安全に関する標語、ポスターでの普及啓発

(1) 医療安全に関する標語

応募数 589作品（施設数 82）

(2) 医療安全ポスター

医療安全に関する標語の優秀賞受賞作品、受賞施設職員をモデルとした医療安全ポスターを作成
県内医療機関や会員施設(団体)に配布

(3) ま と め :

医療安全の普及を目的として募集している標語は、応募施設数、作品数とも増加(施設増19、作品増182)した。今回から、医療安全推進普及啓発用ポスターに施設職員をモデルに起用し作成したことで好評を得ることができた。今後の標語への関心や参加意識が向上するものと期待される。

医療安全管理者の育成

1. 医療安全担当者交流会の開催

(1) 目 的 :

安全で安心な医療・看護を提供するために、医療安全担当者間の課題の検討や情報交換を通し具体的な取り組みを学び、現場に即した実践力を高める。

県内病院の医療安全管理体制の現状について調査した結果から抽出された課題と自施設の課題を明らかにし、どのように取り組んでいくか検討する。

平成25年10月に日本看護協会が医療安全の一連のプロセスである事故の予防と事故後の対応を系統的に新たにまとめた「医療安全推進のための標準テキスト」を発行した。この内容を理解し、自身の所属の特性に合わせて主体的に取り組み、活用できるようにする。

(2) 日 時 : 平成26年1月28日(火) 10:00~16:00

(3) 会 場 : 千葉県看護会館 2階大研修室

(4) 参加人数 : 91名(参加者84名・関係者7名)

(5) 内 容 :

①講演 「医療安全推進のための標準テキスト」をひもとく～現場ですぐに活かせる活用法～

講師:全国社会保険協会連合会 事業部 企画情報課 患者安全推進室 室長 遠田 光子

②県内病院の医療安全管理体制の現状について調査した結果について報告

千葉県看護協会 医療安全委員 高橋 静子

③グループワーク

「県内病院の医療安全管理体制の現状から抽出された課題と自施設の課題を明らかにし、どのように取り組んでいくか検討する。」

内 容:参加者の課題(事前提出)をまとめ、解決に向けた検討及び行動計画を立案する

ファシリテーター:千葉県内医療機関において、専従で医療安全管理者として活躍されている3名及び看護協会医療安全委員3名

(6) ま と め :

講演は、医療安全推進のための標準テキストの活用のポイントや研修に関する考え方、医療有害事象発生時対応の考え方等テキストの活用法について役立つ内容であった。

グループワークでは、調査結果から抽出された課題と、参加者施設それぞれの課題が明らかとなり今後の取り組みについて、活発な意見交換ができた。医療安全対策に活かせる情報を得られたとの声が多く聞かれた。